

2022年6月15日

各 位

ENEOSホールディングス株式会社

「第57回ENEOS児童文化賞」および「第52回ENEOS音楽賞」の受賞者決定

当社（社長：齊藤 猛）は、「第57回 ENEOS児童文化賞」および「第52回 ENEOS音楽賞」の受賞者を決定しましたので、お知らせいたします。

当社は、1966年に児童文化賞、1971年に音楽賞を創設して以来、約半世紀にわたり、わが国の児童文化・音楽文化の発展に大きな業績をあげた個人または団体を顕彰してまいりました。今年度も選考委員会※¹による審議により、受賞者を決定しました。

なお、受賞者には正賞としてトロフィー、副賞として賞金200万円を贈呈いたします。

名称			氏名（敬称略）	分野
第57回 ENEOS児童文化賞			アフリカ子どもの本プロジェクト （アフリカこどものほんプロジェクト）	NGO （代表・さくまゆみこ）
第52回ENEOS音楽賞	邦楽部門		鶴澤 津賀寿 （つるざわ つがじゅ）	女流義太夫 三味線方
	洋楽部門	本賞	野平 一郎 （のだいら いちろう）	作曲家・ピアニスト ・指揮者
		奨励賞	脇園 彩 （わきぞの あや）	メゾソプラノ

以 上

※1 選考委員会委員（順不同、敬称略）

【児童文化賞】

野上 暁（児童文化研究家）、仲居 宏二（放送コンサルタント・元聖心女子大学教授）
山極 壽一（総合地球環境学研究所所長）

【音楽賞 邦楽部門】

徳丸 吉彦（聖徳大学名誉教授・お茶の水女子大学名誉教授）、塚原 康子（東京藝術大学教授）
加納 マリ（日本音楽研究家）

【音楽賞 洋楽部門】

関根 礼子（音楽評論家）、中村 孝義（大阪音楽大学理事長・名誉教授）、船木 篤也（音楽評論家）

<添付資料>

1. 「ENEOS児童文化賞」および「ENEOS音楽賞」の贈賞理由ならびに受賞者のプロフィール
2. 「ENEOS児童文化賞」および「ENEOS音楽賞」の概要
3. 「ENEOS児童文化賞」および「ENEOS音楽賞」の選考委員プロフィール
4. 「ENEOS児童文化賞」および「ENEOS音楽賞」歴代受賞者リスト

「第57回 ENEOS児童文化賞」および「第52回 ENEOS音楽賞」
贈賞理由ならびに各受賞者のプロフィール

1. 第57回 ENEOS児童文化賞

アフリカ子どもの本プロジェクト
(アフリカこどものほんプロジェクト)
NGO (代表・さくまゆみこ)



©沢田としき

◆ 贈賞理由 ◆

絵本『エンザロ村のかまど』(文: さくまゆみこ 絵: 沢田としき)の刊行をきっかけに、2004年、ケニア西部のエンザロ村に子ども図書館「ドリームライブラリー」開設にたずさわった有志が設立して以来、同NGOは18年間にわたってアフリカと日本の子どもたちを本でつなぐ活動を精力的に続けている。現地の子ども図書館を継続的に支え、識字や読書欲求に応えるべくケニア以外のアフリカ各地にも本を届けるとともに、アフリカの文化を日本の子どもたちに伝えるため、アフリカに関する子どもの本の選書を継続し、それを展示しての図書展や、文化イベント、講演会などを約100名の会員のボランティアで地道に全国各地で催している功績を高く評価したい。

(児童文化賞 選考委員会)

◆ プロフィール ◆

2004年に発足。アフリカの子どもと日本の子どもを本でつなぐことを目的に活動をしている。具体的には、①ケニアに設立した子ども図書館を継続的に支える、②識字や楽しみのための本を必要としているアフリカの子どもに本を届ける、③日本の子どもたちにアフリカの文化や子どもたちの暮らしについて伝える、という3点を活動の柱としている。

①については、現地と連絡をとりつつ現在2館の司書への給料、図書や教科書の購入、備品や建物の保全などを支援している。どちらの図書館も年間300日程度開館し、約2万人に利用されている。②については、要請を受けて児童書を送ったり、現地に赴く方に託したりしている。③については、日本で出版されたアフリカ関連の児童書をすべて読み、選書会で推薦本を決め、解題とともにウェブ公開している。また、推薦本やパネルや地図などをまとめた「展示セット」を用意して貸し出すことで、「アフリカを読む、知る、楽しむ 子どもの本展」を日本各地で開催している。同時に講演、子ども向けワークショップなどのイベントを行うこともある。

2. 第52回 ENEOS音楽賞 邦楽部門

鶴澤 津賀寿 (つるざわ つがじゅ)
女流義太夫 三味線方



©山之上雅信

◆ 贈賞理由 ◆

義太夫節の三味線演奏家である鶴澤津賀寿さんは、これまで女流義太夫節界の三味線を牽引してきた。このジャンルでの唯一の人間国宝である太夫の竹本駒之助師の相三味線として多くの舞台を務めてきた。人形を伴う文楽における義太夫節演奏とは違い、女流義太夫節は語りと三味線による素浄瑠璃であるが、津賀寿さんの三味線は太夫との阿吽の呼吸の中で登場人物のせりふや情景を浮き立たせる魅力によって国内外の聴衆を魅了している。最近、義太夫三味線のための創作活動にも取り組み、古典的な手法の中に新しい風をもたらしている。さらに2019年に発足した胡弓・地歌三味線・尺八・義太夫三味線という異色の組み合わせによるアンサンブル「SATZ」で新たな挑戦を始めている。本委員会は、鶴澤津賀寿さんの卓越した演奏と多面的な活動を評価し、彼女がこれからも日本音楽に寄与することを期待する。

(音楽賞邦楽部門 選考委員会)

◆ プロフィール ◆

東京都出身。1980年、早稲田大学第二文学部演劇専攻卒業。1983年、義太夫教室第36期受講。1984年1月、竹本駒之助に入門、三味線を四代目野澤錦糸に師事。1986年5月、駒之助の義母鶴澤三生の幼名津賀寿を継ぎ、本牧亭にて初舞台。鶴澤重輝の預かり弟子となる。1994年より、竹本駒之助の相三味線を勤める。2009年、重要無形文化財(義太夫節)総合指定保持者認定。義太夫節保存会会員。2009年より、国立劇場竹本研修講師。郡司かぶき、花組芝居等、小劇団の演劇への作曲提供、参加多数。2004年以降、寄席粋曲柳家小菊と、2019年以降「SATZ」(高橋翠秋、藤本昭子、善養寺恵介)、2020年以降「ちーむD」(下野戸亜弓、藤舎千穂、鳳聲千晴、大和櫻笙)等、ユニットへの参加も多数。

◆ 主な受賞歴 ◆

- 1991年 芸団協助成新人奨励賞
- 1995年 第11回豊澤仙廣賞
- 1996年 第47回芸術選奨文部大臣賞新人賞(古典芸術部門)
- 1997年 第11回財団法人清栄会奨励賞
- 2000年 第4回ビクター伝統文化振興財団賞「奨励賞」(日本伝統文化振興財団賞)
- 2018年 第7回中島勝祐創作賞

3. 第52回 ENEOS音楽賞 洋楽部門本賞

野平 一郎 (のだいら いちろう)

作曲家、ピアニスト、指揮者



©YOKO SHIMAZAKI

◆ 贈賞理由 ◆

現代は、ルネサンス時代のように多分野にわたって人並み外れた能力を発揮する万能の天才の出現は難しいといわれる。領域の分化や専門化がより先鋭化し、どれ一つをとっても充実した成果を収めることが容易ではなくなったからである。しかし音楽の多様な分野で超一級の成果を上げ続ける人がわが国にもいる。野平一郎氏は、フランス IRCAMなどからの委嘱作品を始め、その作品が2度にわたって尾高賞を受賞したわが国屈指の作曲家であり、ピアニストとしては、古典から現代までの幅広いレパートリーで、室内楽奏者やソリストとして力量を発揮、近年は指揮者としても活躍の場を広げている。しかもベートーヴェンのピアノ・ソナタ全曲の詳細な研究書を上梓する音楽研究者でもあり、さらには静岡音楽館AOIの芸術監督や東京文化会館の音楽監督として、館運営のみならず企画にまで優れた手腕を見せるなど、まさに多くの分野にわたって、縦横無尽の活躍を展開している。これまで重ねられてきた稀有の業績とわが国音楽界への貢献を顕彰するとともに、今後のさらなる活躍を期待して、ENEOS音楽賞本賞を贈賞する。

(音楽賞洋楽部門 選考委員会)

◆ プロフィール ◆

東京藝術大学、同大学院修士課程作曲科を修了後、フランス政府給費留学生としてパリ国立高等音楽院に学ぶ。ピアニストとしては内外のオーケストラにソリストとして出演する一方、多くの国際的な名手たちと共演し、室内楽奏者としても活躍。古典から現代までレパートリーは幅広い。近年はコンチェルトの弾き振りや、自作 自演を含めた指揮活動も多い。現在、静岡音楽館AOI 芸術監督、東京文化会館音楽監督。東京藝術大学 名誉教授、東京音楽大学教授。2021年より3年間モナコ・ピエール皇太子財団音楽評議員を務める。仙台 国際音楽コンクールピアノ部門審査委員長。

◆ 主な受賞歴 ◆

- 1995年 第13回中島健蔵音楽賞
- 1996年 第44回尾高賞、第46回芸術選奨文部大臣新人賞、第11回京都音楽賞実践部門賞
- 2004年 第35回サントリー音楽賞
- 2005年 第55回芸術選奨文部科学大臣賞
- 2012年 紫綬褒章
- 2013年 第61回尾高賞
- 2018年 日本芸術院賞

4. 第52回 ENEOS音楽賞 洋楽部門奨励賞

脇園 彩 (わきぞの あや)
メゾソプラノ



©Ambra Iride Sechi

◆ 贈賞理由 ◆

国際的に最も注目される若手歌手の一人としてイタリアを中心に活動する脇園彩は、2014年ペーザロのロッシーニ・オペラ・フェスティバル『ランスへの旅』メリベア侯爵夫人役でのデビューを皮切りに、同フェスにたびたび出演するなど見事な実績を重ねている。日本では2017年、藤原歌劇団『セビリアの理髪師』ロジーナ役でデビューして以来主要な公演での出演を続け、そのつど新鮮な驚きと賞賛で迎えられてきた。ロッシーニなどの演奏至難の曲を軽やかな美声で完璧に歌いあげる高度のテクニックを大きな支えとしつつ、劇場感覚に富んだ演唱で感情表現を深め、人物像を真実味豊かに創造する能力は抜群。そのオペラ歌手としての総合的表現力を今後も積極的に生かしつつ歩みを進めることが期待されている。

(音楽賞洋楽部門 選考委員会)

◆ プロフィール ◆

東京藝術大学卒業、同大学大学院修了。2013年、文化庁派遣芸術家在外研修員としてパルマ国立音楽院に留学。ロッシーニ・オペラ・フェスティバルのアカデミーに参加し『ランスへの旅』メリベア侯爵夫人役でイタリアでのオペラデビューを果たす。これまでに、ミラノ・スカラ座、ボローニャ歌劇場、パレルモ・マッシモ劇場など世界主要劇場へ出演。2018年にはペーザロのロッシーニ・オペラ・フェスティバルに『セビリアの理髪師』ロジーナ役で出演、ロッシーニ没後150周年記念という特別な公演で大きな話題となった。日本では2017年、藤原歌劇団『セビリアの理髪師』ロジーナ役でオペラデビュー。新国立劇場では2019年『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・エルヴィーラ役で出演以来、『セビリアの理髪師』ロジーナ役、『フィガロの結婚』ケルビーノ役で出演。2021年10月には『チエネレントラ』タイトルロールで出演し、その圧倒的な存在感と卓越した歌唱力で聴衆を魅了した。現在イタリアを拠点に活動し、最も注目される国際的なアーティストのひとりである。

◆ 主な受賞歴 ◆

東京藝術大学在学中 学部3年次 安宅賞

東京藝術大学卒業時 アカンス音楽賞及び同声会賞

「ENEOS児童文化賞」および「ENEOS音楽賞」の概要

当社は、ENEOS児童文化賞およびENEOS音楽賞を、日本の児童文化、音楽文化の発展・向上に大きく貢献した個人または団体をたたえる目的で創設しました。児童文化賞、音楽賞邦楽部門、音楽賞洋楽部門本賞、音楽賞洋楽部門奨励賞の4賞につき、各々1個人または1団体を選出し、それぞれトロフィーと副賞賞金200万円を贈呈しております。

【ENEOS児童文化賞】

1966年に創設した児童文化賞は、今年で57回を数える歴史ある賞に発展しました。受賞者と受賞分野の多彩さがこの賞の特色であり、童画家、教育者、写真家、児童文学作家、子供新聞の編集者、ミュージカル主宰者など、全国的に著名な活動から地域の活動まで、児童文化の各種分野から幅広く受賞者が選ばれています。

【ENEOS音楽賞】

1971年に創設した音楽賞は、今年で52回目を迎えます。また、洋楽部門では1989年から、日本を代表する優れた若手音楽家を讃えるために奨励賞を設けました。邦楽部門においては、これまでに23人の受賞者が重要無形文化財保持者（人間国宝）に認定されています。邦楽部門・洋楽部門を併せ持ち、単年度内の功績ではなく、それまでの実績全体に視点を置いた選考を行っている点がこの賞の特色です。

選考方法

児童文化界、音楽界の有識者の方々に受賞候補者の推薦を依頼し、その結果を参考にして、各部門3名の選考委員により構成される選考委員会において審議の上、受賞者を決定いたします。

「ENEOS 児童文化賞」および「ENEOS 音楽賞」選考委員プロフィール

【児童文化賞】



野上 暁 氏（児童文化研究家）

中央大学卒業。日本ペンクラブ常務理事。日本国際児童図書評議会副会長。日本児童文学学会会員。東京純心大学こども文化学科客員教授。著書に『おもちゃと遊び』『“子ども”というリアル』『子ども学 その源流へ』『越境する児童文学』『子ども文化の現代史』など。共編著に『子どもの本ハンドブック』『いま子どもに読ませたい本』『明日の平和をさがす本』他。



仲居 宏二 氏（放送コンサルタント・元聖心女子大学教授）

早稲田大学第一文学部哲学科卒業。NHKでは主に教育教養番組制作。学校放送番組部長、日本賞コンクール事務局長を経て、関連会社NHKエデュケーショナル常務取締役後、ボツワナ教育テレビ開設に引き続き、現在ベトナム、マラウイ、バングラデシュ、などの教育チャンネルのコンサルタントに当たっている。2012年より聖心女子大学教授を務め、2015年より同大学非常勤講師。



山極 壽一 氏（総合地球環境学研究所所長）

京都大学大学院理学研究科博士課程単位取得退学。京都大学理学博士。人類学者、霊長類学者、ゴリラを主たる研究対象としている。

（財）モンキーセンター リサーチフェロー、京都大学霊長類研究所助手、同大学院理学研究科助教授、教授を経て、2020年9月末まで京都大学総長を務める。著書に『家族進化論』『「サル化」する人間社会』『人生で大事なことはみんなゴリラから教わった』などがある。

【音楽賞 邦楽部門】



徳丸 吉彦 氏（聖徳大学名誉教授・お茶の水女子大学名誉教授）

東京大学文学部卒業・同修士課程修了。ラヴァール大学（カナダ）より博士号。国立音楽大学・お茶の水女子大学・放送大学を経て現在は聖徳大学名誉教授、お茶の水女子大学名誉教授。日本語による最近の著作は『ものがたり 日本音楽史』『ミュージックスとの付き合い方：民族音楽学の拡がり』。他に『三味線音楽の旋律的様相』（仏語）、『音楽・記号・間テキスト性』（英独仏語）、共編に『ガーランド世界音楽事典 7：東アジア』（英語）がある。



塚原 康子 氏（東京藝術大学教授）

東京藝術大学大学院音楽研究科博士後期課程修了（学術博士）。現在、東京藝術大学楽理科教授。とくに近代を中心とする日本音楽史を専攻し、主要著書に『十九世紀の日本における西洋音楽の受容』『明治国家と雅楽』共著に『はじめての音楽史』『日本の伝統芸能講座—音楽—』などがある。



加納 マリ 氏（日本音楽研究家）

武蔵野音楽大学大学院音楽研究科（音楽学専攻）修了。日本音楽史を専門に、雅楽、地方の舞楽、長唄、胡弓などを研究。文化庁芸術祭審査委員（音楽）、文化庁「次代を担う子どもの芸術体験事業」企画委員（伝統芸能）、文化庁芸術選奨選考委員（音楽）、国立劇場邦楽公演専門委員などを務める。

【音楽賞 洋楽部門】



関根 礼子 氏（音楽評論家）

国立音楽大学楽理学科卒。音楽旬報社勤務中から音楽評論活動を行い、1981年よりフリー。『日本のオペラ年鑑』初代編纂委員長を経て現在編纂委員。昭和音楽大学オペラ研究所嘱託研究員。三菱UFJ信託芸術文化財団、東京オペラシティ文化財団、ニッセイ文化振興財団の各理事、新国立劇場専門委員、佐川吉男音楽賞実行委員ほか。著書に『オペラの世界』『日本オペラ史1953～』共著に『オペラ事典』など。



中村 孝義 氏（大阪音楽大学理事長・名誉教授）

関西学院大学大学院文学研究科博士課程修了。ヴェルツブルク大学音楽学研究所客員研究員、大阪音楽大学教授、同大学ザ・カレッジ・オペラハウス館長、大学院研究科長・学長を経て現在、理事長・名誉教授。さらに日本音楽芸術マネジメント学会顧問、(独法)日本芸術文化振興会基金運営委員会委員長、(公財)花王芸術・科学財団、(一財)住友生命福祉文化財団、(公財)ロームミュージックファンデーション、(公財)アフィニス文化財団 など、多くの財団の理事や評議員を務める。著書に『室内楽の歴史』『ベートーヴェン 器楽・室内楽の宇宙』『音楽の窓』など。



船木 篤也 氏（音楽評論家）

東京大学大学院とブレーメン大学に学ぶ。「読売新聞」で演奏評を、NHKで音楽番組の解説を担当。雑誌等でも執筆。東京藝術大学ほかでドイツ語講師。共著に『魅惑のオペラ・ニーベルングの指環』、共訳書に『アドルノ音楽・メディア論』など。(公財)アフィニス文化財団・オーケストラ助成専門委員、(公財)サントリー芸術財団・佐治敬三賞およびサントリー音楽賞選考委員、日本ワーグナー協会理事。

「ENEOS児童文化賞」歴代受賞者リスト（敬称略、*は故人）

回	年 度	氏名・団体名	分 野
1	1966	初山 滋＊ 日本童話会(会長・後藤 樽根＊)	童画家
2	1967	千葉省三＊ 人形劇団プーク(代表・川尻泰司＊)	童話作家
3	1968	棕 鳩十＊ ダークダックス	児童文学者 コーラスグループ
4	1969	金沢嘉市＊ 市川市立養護学校の詩集「いずみ」	教育評論家
5	1970	眞理ヨシコ 戸塚 廉＊	童謡歌手 「おやこ」新聞編集発行
6	1971	吉澤 章＊	折り紙作家
7	1972	管野邦夫	仙台市野草園園長
8	1973	アン・ヘリング＊	児童文学研究家
9	1974	滝平二郎＊	きり絵作家
10	1975	辻村ジュサブロー	人形作家
11	1976	富田博之＊ 劇団「風の子」(代表・多田 徹＊)	青少年文化研究者
12	1977	坂本小九郎と湊中学校養護学級の生徒達	美術教育と版画制作
13	1978	佐野浅夫 瀬川康男＊	俳優 絵本作家
14	1979	田沼武能	写真家
15	1980	渡辺茂男＊	児童文学者
16	1981	ろばの会	作曲家グループ
17	1982	富山県立近代美術館(館長・小川正隆＊)	
18	1983	萩本欽一	TVタレント
19	1984	長崎県外海町(町長・平野武光)	
20	1985	東京放送児童合唱団(代表・近藤真司＊)	
21	1986	手で見るギャラリー・TOM(代表・村山亜土＊・治江)	
22	1987	ボニージャックス	コーラスグループ
23	1988	人形劇カーニバル飯田実行委員会(実行委員長・松澤太郎＊)	
24	1989	岡本忠成＊	アニメーション作家
25	1990	与田準一＊	童謡・童話作家
26	1991	今西祐行＊	児童文学作家
27	1992	「中学生日記」	NHKテレビ番組
28	1993	松居 直	福音館書店会長
29	1994	香川県大川郡大内町(町長・中條弘矩)	
30	1995	「まんが日本昔ばなし」	テレビアニメ番組・愛企画センター制作
31	1996	神沢利子	児童文学作家
32	1997	阪田寛夫＊	詩人・作家
33	1998	細川真理子＊	「札幌こどもミュージカル」代表
34	1999	太田大八＊	絵本画家
35	2000	谷川俊太郎	詩人
36	2001	大原れいこ＊	テレビ演出家
37	2002	長 新太＊	絵本作家
38	2003	山中 恒	児童文学作家
39	2004	越部信義＊	作曲家
40	2005	松谷みよ子＊	作家
41	2006	演劇集団 円 円・こどもステージ	児童劇
42	2007	佐藤さとる＊	児童文学作家
43	2008	今江祥智＊	児童文学作家
44	2009	神宮輝夫＊	児童文学研究家・翻訳家
45	2010	今森光彦	写真家
46	2011	河合雅雄＊	霊長類学者
47	2012	加古里子＊	児童問題研究家
48	2013	角野栄子	作家
49	2014	公益財団法人 東京子ども図書館	
50	2015	五味太郎	絵本作家
51	2016	あまんきみこ	児童文学作家
52	2017	萩尾望都	漫画家
53	2018	奥本大三郎	作家・フランス文学者
54	2019	那須正幹＊	児童文学作家
55	2020	落合恵子	作家
56	2021	田島征三	絵本作家
57	2022	アフリカ子どもの本プロジェクト	NGO(代表・さくまゆみこ)

「ENEOS音楽賞」 邦楽部門 歴代受賞者リスト （敬称略、* は故人）

回	年 度	氏名・団体名	分 野
1	1971	山口五郎 *	琴古流尺八
2	1972	松崎倭佳 *	長唄 唄方
		稀音家幸 *	長唄 三味線
3	1973	菊原初子 *	地歌 箏曲
4	1974	田中伝左衛門 *	歌舞伎 長唄囃子
5	1975	杵屋正邦 *	現代邦楽作曲
6	1976	観世寿夫 *	能楽 シテ方
7	1977	山彦河良 *	河東節
8	1978	杵屋佐登代 *	長唄 唄方
9	1979	鶴田錦史 *	薩摩琵琶
10	1980	町田佳聲 *	邦楽研究評論
		福原百之助 *	長唄 囃子笛方
11	1981	太田里子 *	地歌 箏曲
12	1982	今藤長十郎 *	長唄 三味線
13	1983	都 一中 *	一中節 三味線
14	1984	常磐津文字兵衛	常磐津節 三味線
15	1985	浅川玉兔 *	長唄研究
		竹本住大夫 *	義太夫節太夫
16	1986	杵屋五三郎 *	長唄 三味線
17	1987	中田博之 *	箏曲
18	1988	平井澄子 *	現代邦楽
19	1989	米川敏子 *	箏曲
20	1990	日本音楽集団	現代邦楽創造グループ
21	1991	尺八三本会	尺八
22	1992	宮田哲男	長唄 唄方
23	1993	一噌幸政 *	能楽笛方
24	1994	都一いき *	一中節
25	1995	藤井久仁江 *	地歌 箏曲
26	1996	竹本駒之助	女流義太夫
27	1997	芝 祐靖 *	雅楽
28	1998	観世榮夫 *	能楽 シテ方
29	1999	鶴澤清治	文楽 三味線方
30	2000	田島佳子 *	長唄 三味線方
31	2001	山本東次郎	大蔵流狂言
32	2002	川瀬白秋 *	箏曲 胡弓
33	2003	大和久満 *	大和楽 三味線方
34	2004	米川裕枝	箏曲
35	2005	味見 亨	長唄 三味線方
36	2006	野坂恵子 *	箏曲
37	2007	横道萬里雄 *	楽劇評論
38	2008	今藤政太郎	長唄 三味線方
39	2009	藤舎呂船	邦楽囃子
40	2010	近藤乾之助 *	能楽 宝生流 シテ方
41	2011	豊竹咲大夫	文楽義太夫節太夫
42	2012	清元美治郎 *	清元節 三味線方
43	2013	今藤尚之	長唄 唄方
44	2014	中川善雄	邦楽囃子 笛方
45	2015	沢井一恵	箏曲
46	2016	稀音家義丸	長唄演奏家・研究家
47	2017	豊竹呂太夫	文楽義太夫節太夫
48	2018	杵屋勝国	長唄 三味線
49	2019	観世清和	能楽 観世流シテ方
50	2020	伶楽舎	雅楽演奏グループ
51	2021	清元美寿太夫	清元節 浄瑠璃方
52	2022	鶴澤津賀寿	女流義太夫三味線方

「ENEOS音楽賞」 洋楽部門本賞 歴代受賞者リスト （敬称略、*は故人）

回	年 度	氏名・団体名	分 野
1	1971	江藤俊哉 *	ヴァイオリン
2	1972	朝比奈 隆 *	指揮
3	1973	東京室内歌劇場	オペラ
4	1974	巖本真理 * 弦楽四重奏団	室内楽
5	1975	小澤征爾	指揮
6	1976	鈴木鎮一 *	音楽教育
7	1977	園田高弘 *	ピアノ
8	1978	音楽之友社	音楽総合出版
9	1979	小林道夫	チェンバロ
10	1980	二期会	声楽研究・オペラ公演
11	1981	武満 徹 *	作曲
12	1982	渡辺暁雄 *	指揮
13	1983	札幌交響楽団	オーケストラ
14	1984	野村光一 *	音楽評論
15	1985	東 敦子 *	ソプラノ
16	1986	藤原歌劇団	オペラ
17	1987	堤 剛	チェロ
18	1988	アンリエット・ピュイグ＝ロジエ *	ピアノ
19	1989	吉田雅夫 *	フルート
20	1990	三善 晃 *	作曲
21	1991	若杉 弘 *	指揮
22	1992	中澤 桂 *	ソプラノ
23	1993	和波孝禧	ヴァイオリン
24	1994	松村禎三 *	作曲
25	1995	今井信子	ヴィオラ
26	1996	秋山和慶と東京交響楽団	
27	1997	畑中良輔 *	バリトン・音楽評論
28	1998	松本美和子	ソプラノ
29	1999	鈴木雅明とバッハ・コレギウム・ジャパン	
30	2000	大阪音楽大学ザ・カレッジ・オペラハウス	
31	2001	西村 朗	作曲
32	2002	海老彰子	ピアノ
33	2003	福井 敬	テノール
34	2004	小栗まち絵	ヴァイオリン
35	2005	中村紘子 *	ピアノ
36	2006	モーツァルト劇場（主宰：高橋英郎 *）	オペラ
37	2007	前橋汀子	ヴァイオリン
38	2008	ゲルハルト・ボッセ *	指揮
39	2009	大野和士	指揮
40	2010	田中信昭	合唱指揮
41	2011	公益財団法人仙台フィルハーモニー管弦楽団	オーケストラ
42	2012	舘野 泉	ピアノ
43	2013	小山実稚恵	ピアノ
44	2014	佐々木典子	ソプラノ
45	2015	寺神戸亮	ヴァイオリン・指揮
46	2016	井上道義	指揮
47	2017	モルゴーア・クアルテット	弦楽四重奏
48	2018	池辺晋一郎	作曲
49	2019	尾高忠明	指揮
50	2020	佐藤美枝子	ソプラノ
51	2021	滋賀県立芸術劇場びわ湖ホールと沼尻竜典	
52	2022	野平一郎	作曲家・ピアニスト・指揮者

「ENEOS音楽賞」 洋楽部門 奨励賞歴代受賞者リスト （敬称略）

回	年 度	氏名・団体名	分 野
1	1989	吉野直子	ハーブ
2	1990	漆原朝子	ヴァイオリン
3	1991	長谷川陽子	チェロ
4	1992	佐久間由美子	フルート
5	1993	仲道郁代	ピアノ
6	1994	錦織 健	テノール
7	1995	千住真理子	ヴァイオリン
8	1996	高橋薫子	ソプラノ
9	1997	櫻本大進	ヴァイオリン
10	1998	若林 顕	ピアノ
11	1999	佐野成宏	テノール
12	2000	横山幸雄	ピアノ
13	2001	森 悠子主宰長岡京室内アンサンブル	
14	2002	矢崎彦太郎	指揮
15	2003	川田知子	ヴァイオリン
16	2004	斉田正子	ソプラノ
17	2005	渡辺玲子	ヴァイオリン
18	2006	篠崎和子	ハーブ
19	2007	藤村実穂子	メゾソプラノ
20	2008	幸田浩子	ソプラノ
21	2009	趙 静	チェロ
22	2010	藤倉大	作曲
23	2011	栗國淳	オペラ演出
24	2012	山崎伸子	チェロ
25	2013	古典四重奏団	弦楽四重奏
26	2014	下野竜也	指揮
27	2015	川本嘉子	ヴィオラ
28	2016	萩原麻未	ピアノ
29	2017	中村恵理	ソプラノ
30	2018	小倉貴久子	フォルテピアノ
31	2019	吉井瑞穂	オーボエ
32	2020	アントネッロ(主宰:濱田芳通)	古楽アンサンブル
33	2021	広島交響楽団	オーケストラ
34	2022	脇園彩	メゾソプラノ